

資料 2

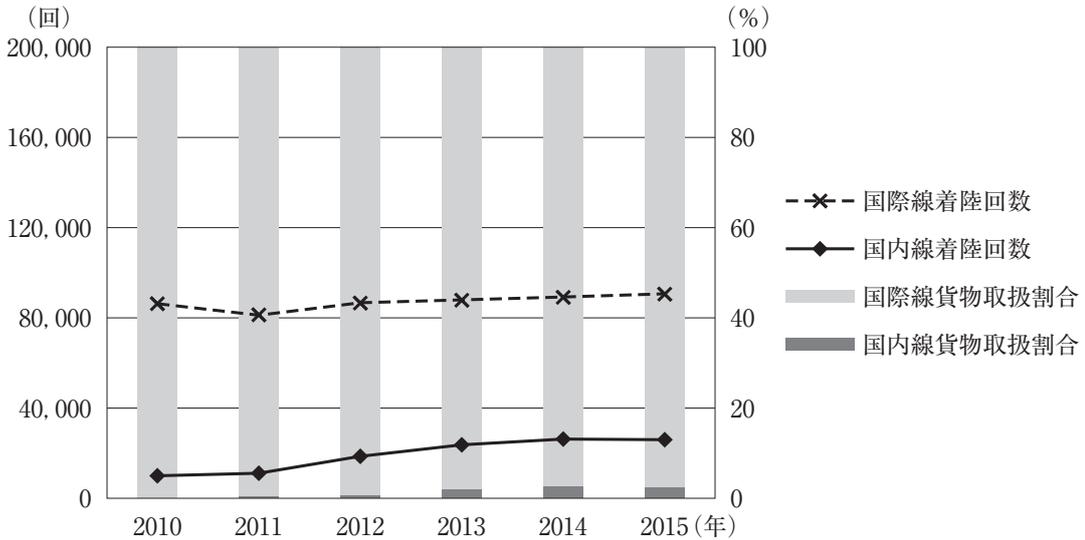


(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「成田」, 昭和 45 年発行による)

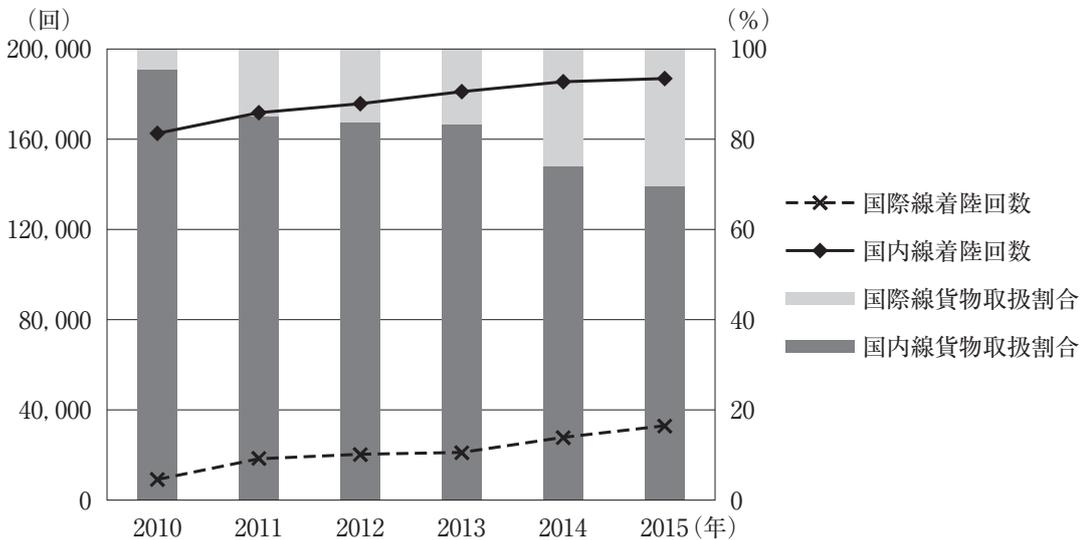
- ① 資料 1 で「新東京国際空港」である場所の一部は、資料 2 では「下総御料牧場」であった。
- ② 資料 1 で空港まで延伸している鉄道は、資料 2 では「けいせいなりた」駅が終点であった。
- ③ 資料 1 で「野毛平工業団地」である場所は、資料 2 では畑や森林などであった。
- ④ 資料 1 で「成田インターチェンジ」である場所は、資料 2 では変電所であった。

問 2 ユキノさんは、成田国際空港の近年の動向に関する特徴を把握するために、東京国際空港（羽田空港）と比較して、資料3～資料5を基に発表を行った。資料6は、その発表から分かったことをクラスメイトが記したレポートである。発表を踏まえたレポートとして不適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

資料3 成田国際空港における着陸回数および貨物取扱割合の推移



資料4 東京国際空港における着陸回数および貨物取扱割合の推移



注) 貨物取扱割合は、積み下ろしを合わせた貨物取扱量を基に、国際線と国内線を合わせて100%となるように算出した。

(国土交通省「暦年・年度別空港管理状況調書」により作成)

資料5 発表メモの一部

<ul style="list-style-type: none"> ・東京都大田区に所在する東京国際空港では、2010年に国際線旅客ターミナルが供用開始し、国際線の就航が増加している。 ・成田国際空港では、2012年にLCC専用国内線ターミナルが供用開始し、国内線の就航が増加した。 ・成田国際空港は、首都圏の航空需要や訪日観光客の増加予想を背景に、東京国際空港とともに、騒音などの地域への影響を考慮しながら、さらなる発展を目指している。

注) LCCとは、Low Cost Carrier の略で、格安航空会社のこと。

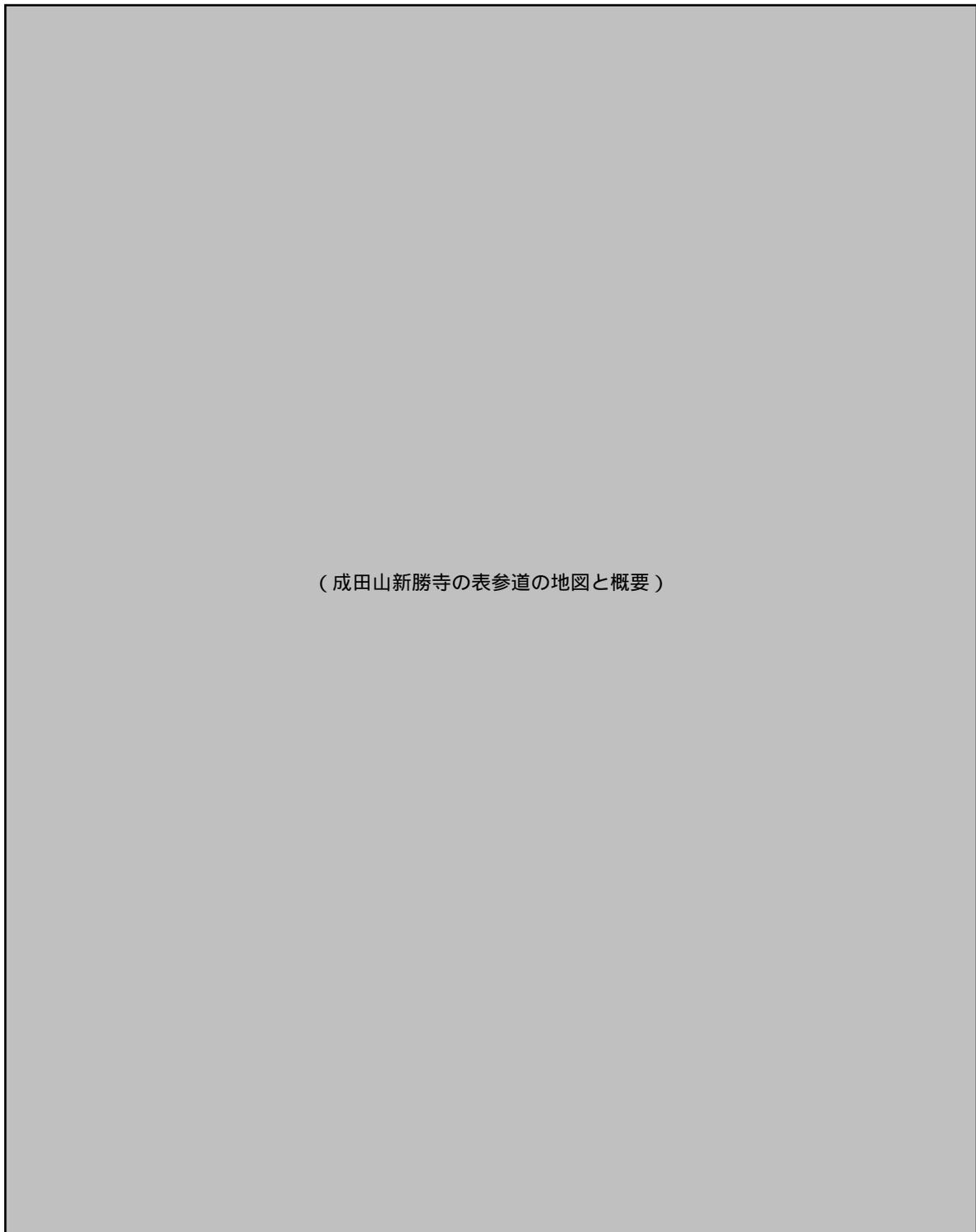
資料6 発表に対してクラスメイトが感想を記したレポート

①	資料3から、成田国際空港は、国際線着陸回数が2010年から2015年まで一貫して国内線着陸回数の2倍を上回っており、国際線の就航が主となっている空港であることが分かりました。
②	資料4から、東京国際空港は、国内線着陸回数と国内線貨物取扱割合がともに2010年から2015年まで一貫して増加しており、国内線の就航が主となっている空港であることが分かりました。
③	資料3と資料4から、2010年と2015年とを比較すると、成田国際空港は国内線着陸回数が増加し、東京国際空港は国際線着陸回数が増加していることが分かりました。
④	資料3と資料5から、2015年における成田国際空港の着陸回数は、国際線と国内線を合計すると10万回以上となり、今後とも航空需要の増加が予想されることから、さらなる発展を目指していることが分かりました。

問 3 ユキノさんは、成田市の観光地である成田山新勝寺について、資料7～資料9を得た。これらの資料を基に作成した資料10の下線部①～④のうち、不適切なものを一つ選べ。

解答番号は 。

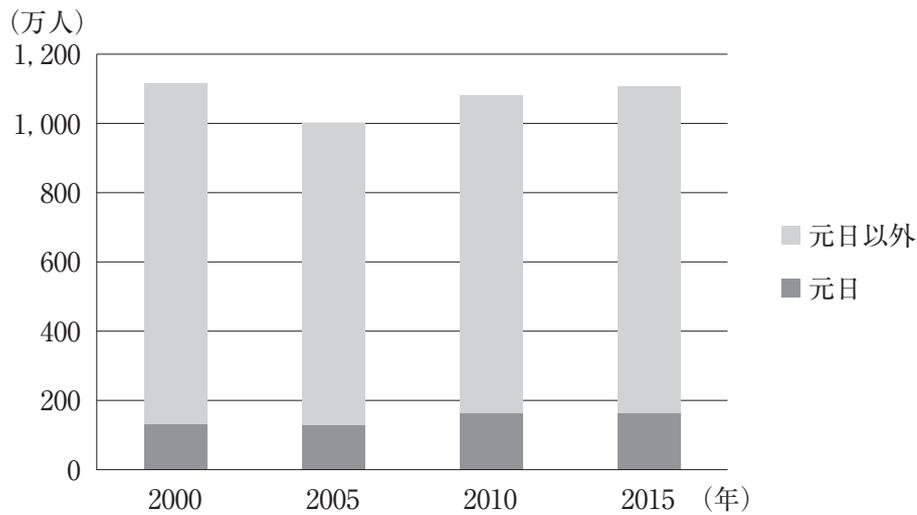
資料7 成田山新勝寺の表参道地図



(成田山新勝寺の表参道の地図と概要)

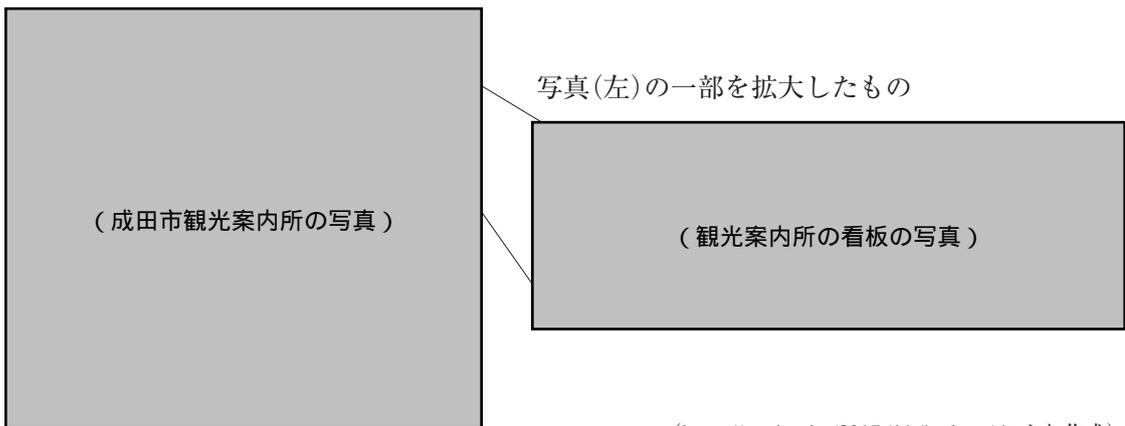
(「成田市観光ガイドマップ」などにより作成)

資料8 成田山新勝寺への観光入込客数の変遷



注) 観光入込客とは、観光地点及び行祭事・イベントに訪れた者のこと。
 (『成田市統計書 平成27年版』などにより作成)

資料9 成田市観光案内所の写真



(<http://naripo.jp/2015/11/locker/> により作成)

資料10

「成田のお不動さま」の名で親しまれる成田山新勝寺は、多くの観光客でにぎわっている。鉄道駅から成田山新勝寺への間には、①飲食店や土産物屋が軒を連ねる門前町が形成されている。

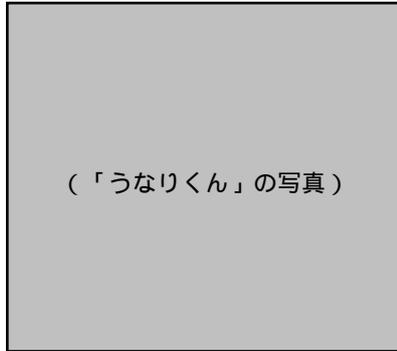
成田山新勝寺表参道では、②電線を地中化するなどして電柱が見当たらず、古い町並みが保全されるとともに、歩行者の利便性が向上した。

成田山新勝寺の観光入込客数について、2000年から2015年までの5年ごとの変遷をみると、全ての年で③年間観光入込客数の2割以上が元日に訪れていたことが分かる。

成田市は、訪日外国人旅行者に対応するため、④案内看板に複数の言語を併記するなどの取組をすすめている。

問 4 ユキノさんは、成田市の地域キャラクターに興味を持ち、資料11～資料13を得た。これらの資料に関して、ユキノさんと先生の会話文中の空欄 **X** ， **Y** に当てはまる語句として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **20** 。

資料11 2市の地域キャラクター



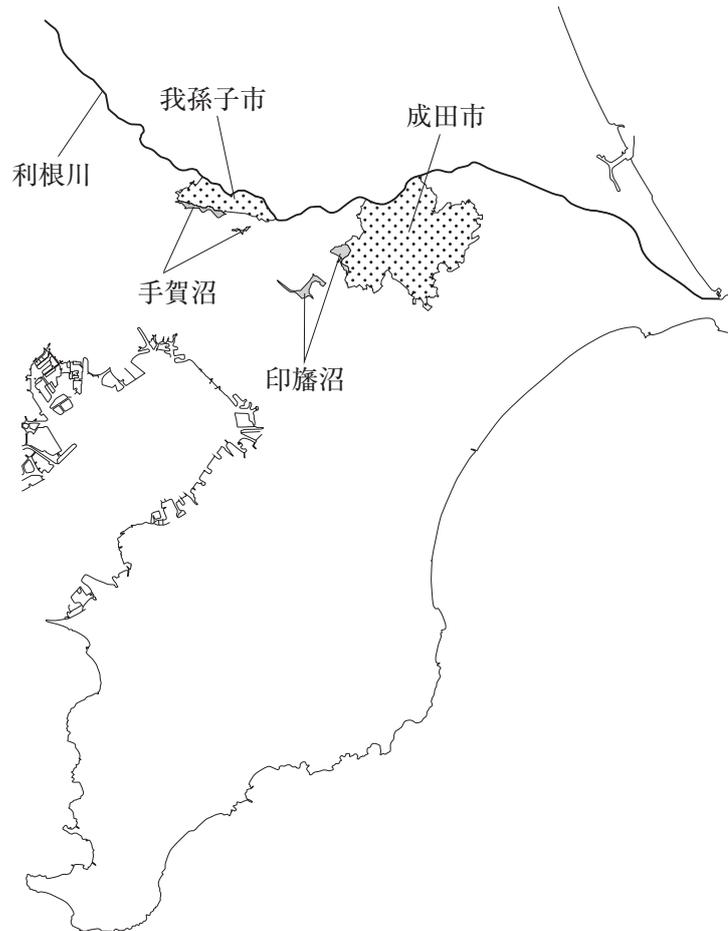
(「うなりくん」の写真)



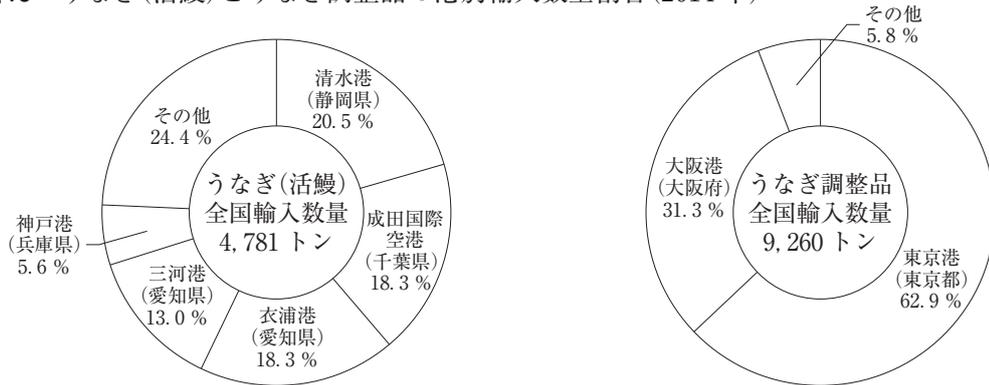
「手賀沼のうなきちさん」(我孫子市)

(<http://www.city.narita.chiba.jp/unarikun/std0008.html> などにより作成)

資料12 キャラクターと関係する都市と河川や沼の位置



資料13 うなぎ(活鰻)とうなぎ調整品の港別輸入数量割合(2014年)



注) 活鰻とは生きたうなぎのことであり、うなぎ調整品とは蒲焼きなどのように、うなぎを調理した製品や半加工品の総称である。

(東京税関資料により作成)

ユキノ：資料11をみると、成田市と近隣の我孫子市では、ともうなぎが主役となっているようです。これはなぜなのでしょう。

先生：資料12を見て下さい。両市は **X** に恵まれ、古くからうなぎが名物となっているようです。さらに、我孫子は宿場町として、また、成田は成田詣の拠点として、旅人の疲れを癒やす食材であるうなぎが重宝されてきました。

次に、資料13を見て下さい。これらのグラフからも、成田市とうなぎの関係が読み取れますよ。

ユキノ：成田国際空港は国内でもうなぎ(活鰻)の輸入がとても多い港のようです。ところで、東京周辺では、生きたうなぎは成田国際空港から、うなぎ調整品は東京港から多くを輸入しているようですが、なぜなのでしょう。

先生：航空輸送の特徴に **Y** にすぐれている点があります。成田国際空港は、国際線の就航が多く輸入貨物に対する設備も整っており、高速道路も整備されて国内物流の拠点となっていることから、生きたうなぎの輸入に適しています。さらに、大市場の東京にも近いという地理的利点も生かせることから、成田市は貿易面でもうなぎと縁があるわけです。

ユキノ：地域キャラクターには、地域の魅力や要素が凝縮されていて、地域調査のきっかけとしても、とても有意義なものですね。

	X	Y
①	うなぎが捕獲できる水辺環境	輸送費は高いが、速達性
②	うなぎが捕獲できる水辺環境	輸送費が安く、大量輸送
③	うなぎを輸入する港湾施設	輸送費は高いが、速達性
④	うなぎを輸入する港湾施設	輸送費が安く、大量輸送

(これで地理Aの問題は終わりです。)